

## 5. エリによる漁獲標本採集

吉岡 剛

エリは、琵琶湖の漁法の中で、規模と漁獲量とも大きく琵琶湖を代表する漁法であり、その景観は非常に美しく琵琶湖の風物詩ともいわれている。定置網であるため季節により魚種や漁獲量も変化に富んでおり、日により漁獲量の差も大きい。また、エリはその材質や構造から、風波の強い場所には造れないので、多くは内湾や比較的流れの緩やかな遠浅の沿岸部に設置されている。図1にエリの図を示した。ワタリに沿ってオトシに迷入し、ツボに入った魚をツボの網を上げることで漁獲するものである。

エリには大きく分けて二つのタイプがあり、一つはアユを漁獲目的とした網えりで湖中に立てられたFRP製ポールを支柱にして網を張ってあるもの、もう一つはフナ、ウナギ等を目的魚種とした簀エリで湖中に立てられたFRP製ポールを支柱にしてビニール製の簀を幾重にもつなぎ合わせて作られている。えりは設置場所により構造が異なり、それぞれの地形に合ったエリが作られている。

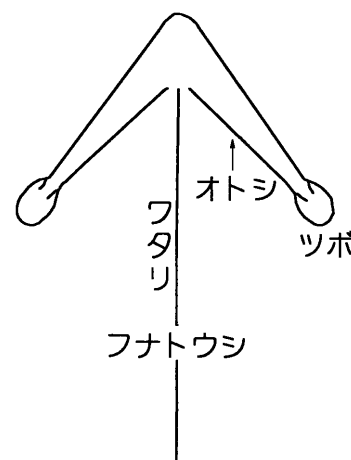


図1 網エリの模式図

### (1) 調査地点の概要

#### ・湖北町尾上

琵琶湖の北東部に位置し、塩津湾の始まりにあたる。エリは尾上港から北へ1 kmほどの所にある。底質は砂泥である。

#### ・彦根市須越町

北湖の東側に位置し、エリは沖へ500m程のところで宇曾川をはさんで北と南に一つずつ設置されている。冬期に北風をまともに受けるため操業できない日が多い。

#### ・中主町吉川

北湖の南側に位置し、滋賀県最大の河川野洲川の河口部にあたる。エリは野洲川河口から北へ1 km程の所に設置されている。このエリは、日による漁獲量の差が激しいそうである。

#### ・草津市北山田町

南湖の東側に位置し、琵琶湖のエリの中では南の部類になる。エリは北山田の港から西へ1 km程の所に設置され、これは草津川の河口部にあたる。このエリは網の汚れが激しく、いつも洗わねばならないということであった。

#### ・マキノ町知内

北湖の西側に位置する、北湖の西側は岩礁地帯で急深の沿岸帯が多いため、エリは数少ない砂地に設置されている。エリは知内川の河口から500mほど沖に5つ設置されている。

## (2) 調査方法と期間

漁業者がエリツボを上げに行く船に同乗させてもらい、アユの取り上げおよび仕分け時にアユ、ホンモロコ、スジエビ以外の雑魚を分けてもらうという形をとった。漁業操業の邪魔にならぬように調査したため、雑魚のすべてを回収することができず、また、数量が目測とならざるをえなかった。

今回の調査は、琵琶湖一円を網羅するために5地点の代表的な網エリによって行った。

エリには禁漁期間はないが、アユの禁漁期間が8月11日から11月20日まで設定されており、アユを目的魚種としている網エリではこの間は漁をしないエリがほとんどであり、アユの魚価の高い冬期を避けた結果調査期間は表1に示す時期となった。

表1 エリによる漁獲標本採集調査期間等

調査地名	調査時期	調査期間	水温	漁具数(ツボ数)
湖北町尾上	春期	1994/05/25	15.5℃	2
	夏期	1994/07/18	25.5℃	1
	春期	1995/05/10	15.8℃	1
彦根市須越町	春期	1994/05/24	17.8℃	4
	冬期	1995/02/23	6.4℃	2
中主町吉川	春期	1994/05/25	17.8℃	2
	夏期	1994/07/12	27.0℃	2
	春期	1995/05/24	16.0℃	1
草津市北山田	春期	1994/05/31	20.5℃	2
	夏期	1994/07/25	28.5℃	1
マキノ町知内	夏期	1994/06/02	18.5℃	7
	春期	1995/05/30	16.0℃	7

## (3) 調査結果

### 1) 地点別調査結果

湖北町尾上(魚類28種、甲殻類2種:この地点の全調査で確認された種類数、以下同様に示す。)

(春期)漁獲物の大半はアユ、スジエビ、ヨシノボリで、イサザは2尾、その他カネヒラ、テナガエビが確認できた。オオクチバスは確認できなかった。魚類18種類、甲殻類2種類確認。

(夏期) 強風のため4日間エリツボは上げられていなかった。漁獲物の大半はアユ、スジエビ、ワカサギ、ヨシノボリ、ウツセミカジカであった。その他として春期の調査で確認できなかった、ウキゴリ、スナヤツメ、オオクチバス等が確認できた。特筆すべき点として、0年魚と思われるワカサギが大量に漁獲された。魚類18種類、甲殻類1種類確認。

(春期) 漁獲の大半を占めたのはアユとスジエビであり、前年の春、夏の調査では確認できなかったシロヒレタビラ、イフトコナマズ、ヤリタナゴ、ギギを確認した。中でもシロヒレタビラはアユ、スジエビの次に大量に漁獲された。夏期調査で大量に確認されたワカサギは1尾確認したのみであった。オオクチバスは確認できなかった。魚類20種類、甲殻類2種類確認。

#### 彦根市須越町 (魚類16種、甲殻類4種)

(春期) 漁獲の大半を占めたのはアユ、スジエビ、ヨシノボリであった。オオクチバスは確認できたが、ブルーギルは確認できなかった。その他にゼゼラ、ヌマエビ等が確認できた。魚類12種類、甲殻類4種類確認。

(冬期) アユが大量に漁獲された以外はどれも100尾以下の漁獲状況であった。特にスジエビは、62尾と数えるほどしか確認できなかった。オオクチバスは確認できず、ワカサギは2尾のみであった。魚類12種類、甲殻類2種類確認。

#### 中主町吉川 (魚類23種、甲殻類3種)

(春期) 漁獲の多かったものはアユ、スジエビ、ヨシノボリ、ゼゼラの4種であった。その他にウグイ、ピフヒガイ、ウキゴリ等を確認した。オオクチバスは確認できなかった。また、エリツボの網目に魚卵が多数付着しており漁業者の話によるとゼゼラの卵ではないかということであった。魚類17種類、甲殻類3種類確認。

(夏期) 相対的に漁獲量が多くアユ、スジエビ、ワカサギ、ホンモロコが大半を占めていた。その他ヨシノボリ、デメモロコ、ウキゴリも大量に漁獲された。特筆すべき点としてはワカサギが大量に漁獲されたことである。例年漁獲されることはあってもわずかであったのが、今回の調査で大量に漁獲された。魚類16種類、甲殻類1種類確認。

(春期) 漁獲のほとんどをアユ、スジエビが占めていた。その他ホンモロコ、ハス、オオクチバス、ブルーギルも大量に漁獲された。特筆すべき点として、ゲンゴロウブナと琵琶湖の北にすんでいるとされているイフトコナマズも確認できた。魚類18種類、甲殻類1種類確認。

#### 草津市北山田町 (魚類17種、甲殻類3種)

(春期) 漁獲量の大半はアユ、ヨシノボリ、ウキゴリによって占められていた。スジエビは少なかった。その他オオクチバス、ブルーギル、テナガエビ等が少ないながらも確認できた。魚類11種類、甲殻類3種類確認。

(夏期) アユ、スジエビの他、特に目立ったのはブルーギルの稚魚であった。全長2cm程の大きさのものが約4000尾ほど確認できた。カムルチーも確認した。オオタニシ、ヒメタニシ、チリメンカワニナの貝類を3種類確認した。同時期、北湖のエリで大量に確認されたワカサギは1尾のみであった。魚類16種類、甲殻類3種類確認。

マキノ町知内（魚類23種、甲殻類2種）

（夏期）アユとスジエビが大量に漁獲された他は、ヨシノボリ、ウツセミカジカ、ヌマチチブ等が大量に確認できた。少しではあるが、ギギ、イサザ、カネヒラ等も確認した。オオクチバス、ブルーギルは確認できなかった。なお、エリツボの中に鶏が入り込んでいた。魚類16種類、甲殻類2種類確認。

（春期）漁獲量の大半はアユ、スジエビが占めた。イサザが、89尾確認できた。全長109cmのハクレンやギギ、カムルチー、カネヒラ、シロヒレタビラの他ビワマスの稚魚も確認できた。今回のエリ調査の中で最も多くの魚類が確認された。魚類21種類、甲殻類2種類確認。

## 2) エリ漁獲状況の傾向、課題等

エリは、琵琶湖の魚類の習性をうまく利用した漁法であるだけに、漁獲種類、漁獲量ともに多い。今回の調査でも魚類33種、甲殻類4種が確認できた。エリは、季節による魚種の変化が大きく、最も多くの種類が確認できるのは産卵のために岸に寄り、エリに迷入する春の時期である。また、日によっても漁獲は変化し、湖が荒れた翌日は漁獲量が増加する傾向にあるようである。

今回の調査において、魚種は北のエリで多く、漁獲量は南で多い傾向があった。北のエリでは種類は多いものの1尾ずつという採れかたをしているが、南では種類は少ないものの大量に漁獲されている。特にタナゴ類は北のエリでのみ確認されている。反対にゼゼラは南でよく確認されている。イフトコナマズも北湖のみで確認された。

今回の調査で、最も興味深かったことは湖北町尾上と中主町吉川の夏期調査において0年魚と思われるワカサギが大量に確認されたことである。今まで少しは漁獲されていたものの、ここまで大量に確認されたのは初めてのことでこれ以降、沖曳網、小糸網等で大型のワカサギが大量に漁獲されるようになった。

### 【参考文献】

- 1) 松田尚一・前畑政善・秋山廣光・松田征也・桑原雅之（1991）：湖国琵琶湖の魚たち（滋賀県立琵琶湖文化館編）。第一法規出版株式会社，東京，189pp

表2 エリにおける魚種別の採捕結果

	湖北町尾上			須越町西塚		中主町吉川			北山田町		マキノ町知内	
	春	夏	春	春	冬	春	夏	春	春	夏	夏	春
スナヤツメ		○										
ウナギ			○			○					○	
ワカサギ		●	○		○		●			○		○
アユ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ビフマス												○
オイカフ		○					○	○	○	○		
ハス		○	◎		○	○	○	●		◎	○	○
ウグイ		○		○		○	●	○			○	○
ハクレン												○
ホンモロコ	○	○	○	◎		◎	●	●	◎	◎	○	○
ビフヒガイ	○		◎	○	○	○				◎	○	○
カマツカ	◎	●	◎	○	○	○	○	○			○	○
ぜぜら				◎	○	●	◎	◎	○	○	○	○
スゴモロコ			○		◎			○				○
デメモロコ	○	○		○		◎	●	○	○	●	○	○
ニゴイ		◎	○	○	○	○	◎	○		○	○	○
コイ			○			○		○				
ニゴロブナ	○	○	◎			○	○	○	○			
ゲンゴロウブナ								○				
ギンブナ		○								○		
ヤリタナゴ			○									
シロヒレタビラ			●									○
カネヒラ	○										○	
ギギ			○								○	○
イフトコナマズ			○					○				
カムルチー										○		○
オオクチバス		○		○			◎	●	○	◎		
ブルーギル	○	○	○		○	◎	○	●	◎	●		○
ヨシノボリ	●	●		●	◎	●	●	●	●	●	●	◎
アマチチブ	○	◎	○	○	○	◎	○		●	○	◎	○
イサザ	○		○								○	◎
ウキゴリ		○	○			○	●		●	○		
ウツセミカジカ	○	●	○	○	○	○		○			◎	○
ヌマエビ				○	○							
テナガエビ	○		○	○		○			○	○	○	○
スジエビ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アメリカザリガニ				○		○			○	○		

採捕尾数 ○ < 10    10 ≤ ◎ < 50    50 ≤ ●

注 エリ一統当たりの採捕尾数

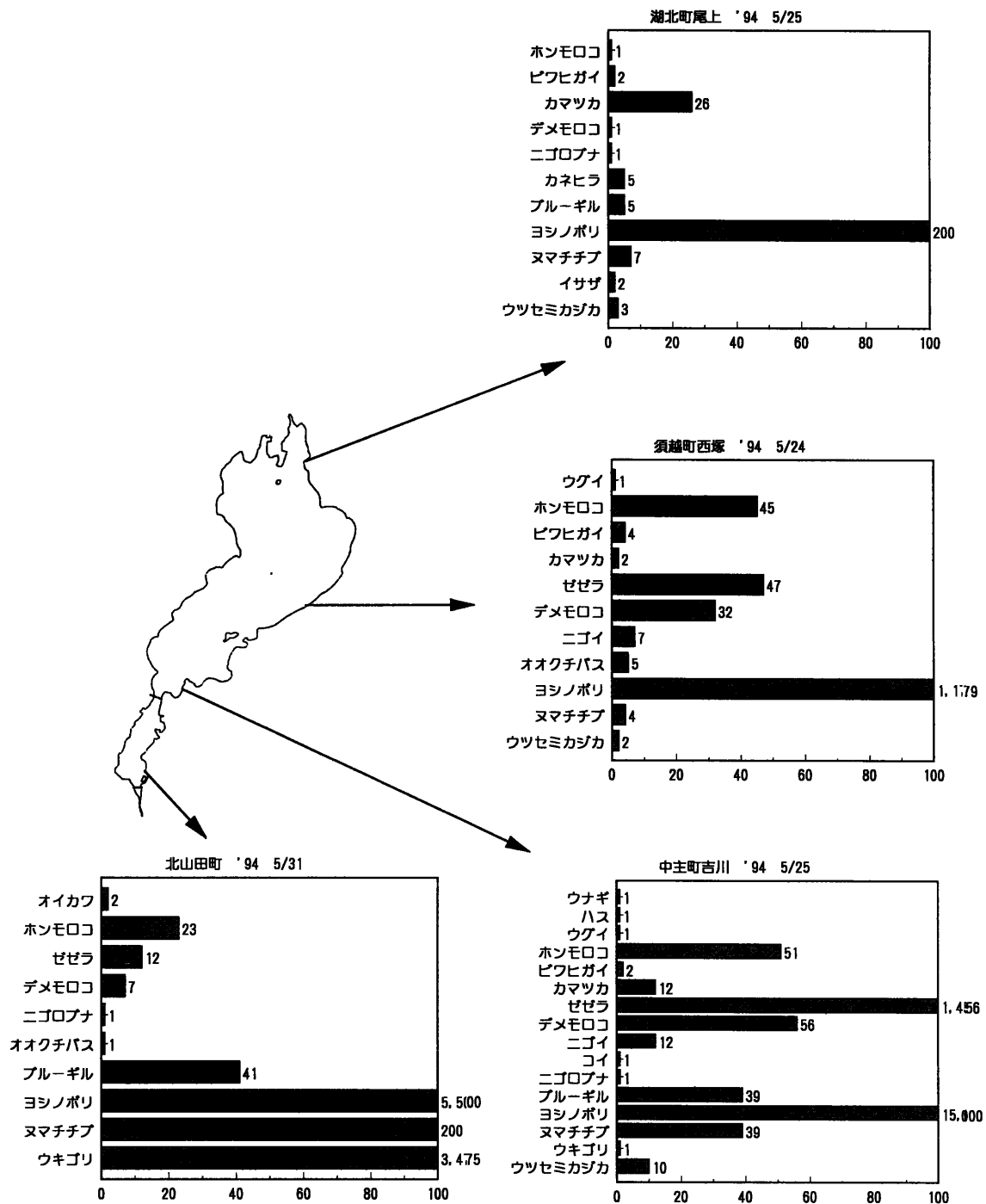


図2 エリにおける魚種別漁獲量 春期

アユ目的のエリであるためアユは除く。なお、漁獲量は一日当たりの総漁獲量を示す。

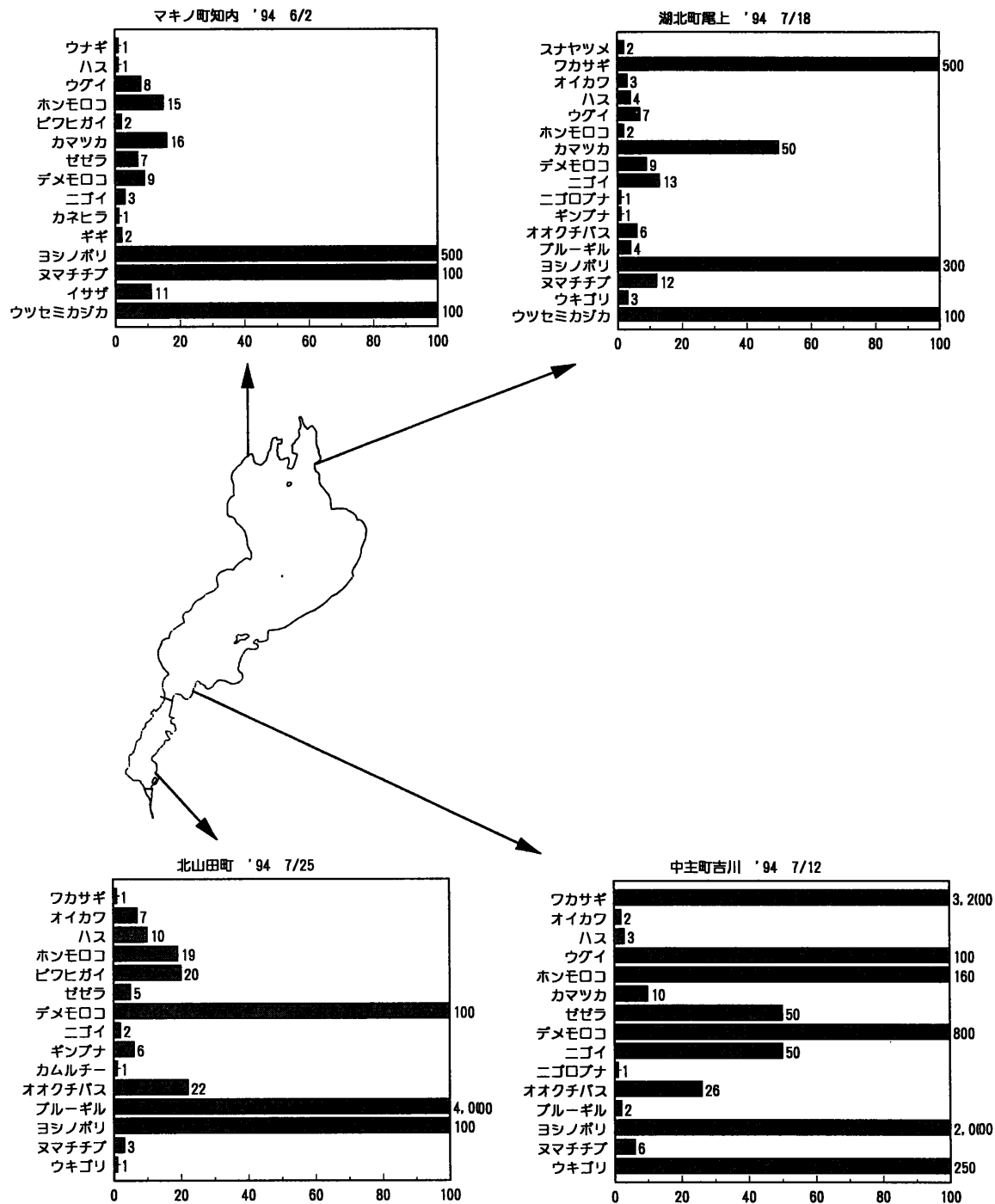


図3 エリにおける魚種別漁獲量 夏期

アユ目的のエリであるためアユは除く。なお、漁獲量は一日当たりの総漁獲量を示す。

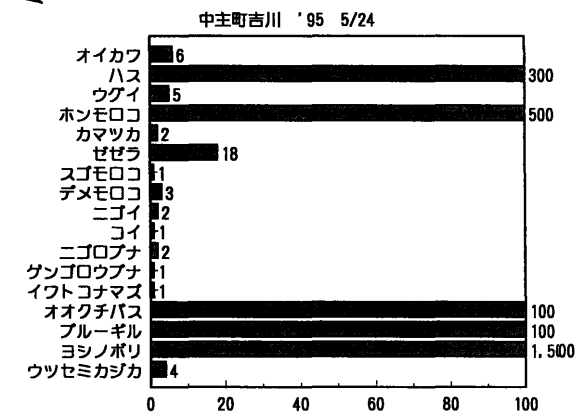
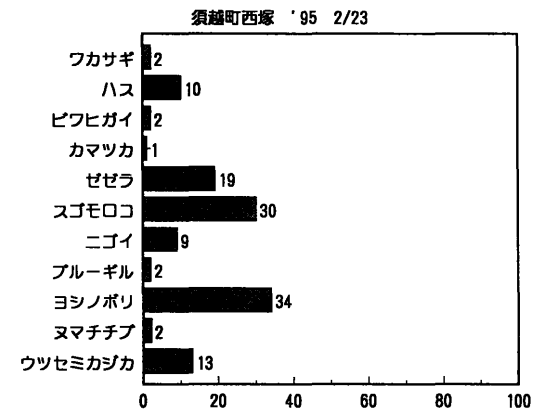
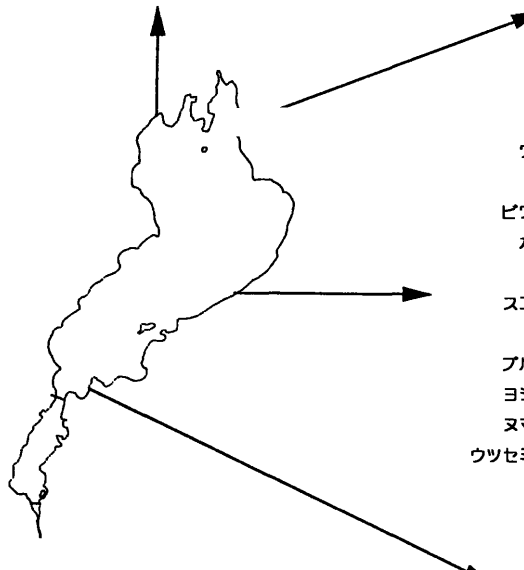
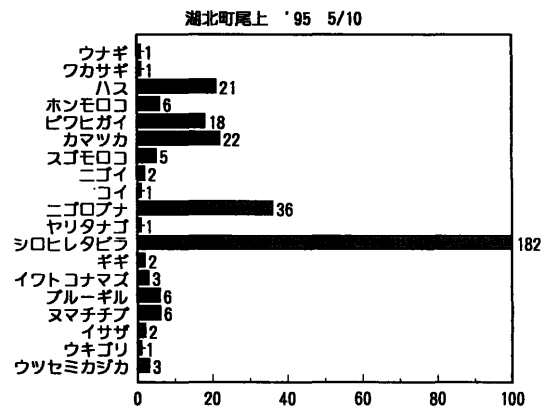
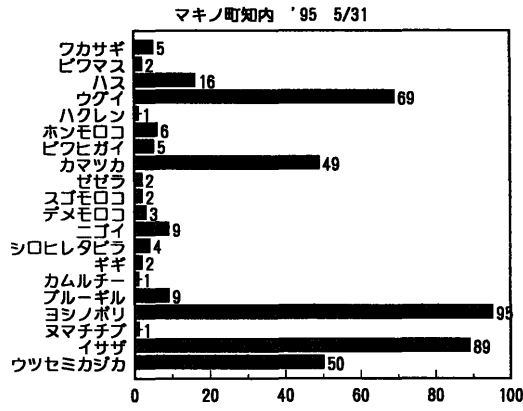


図4 エリにおける魚種別漁獲量 冬期・春期

アユ目的のエリであるためアユは除く。なお、漁獲量は一日当たりの総漁獲量を示す。